《外國語文研究》第十九期 抽印本
2013 年 12 月　　1~17 頁

台日大學生待遇表現中有關客套程度之研究

吳岳樺

《外國語文研究》第十九期
2013 年 12 月　　頁 1~17

台日大學生待遇表現中有關客套程度之研究

吳岳樺*

摘要

本文旨在考察台灣大學生高級日語學習者（TS）及日本大學生（JS）雙方在待遇表現中客套程度，比較結果得到主要結論如下：

（1） TS 在當對方是老師或是學長姊等屬於權力關係上位的時候，比 JS 使用客套程度較高之敬語表現。TS 對長者使用敬語的意識規範較明顯。

（2） 通常日語中來表示親近關係的「desu/masu」用法，在本調查中得知當對方是同級生或是學弟妹等權力關係是平等或下位的時候，TS 在使用「desu/masu」的比率高於 JS。

（3） 當對方是阿姨或伯母等年齡較高者的時候，JS 相對比 TS 使用客套程度較高之敬語表現。在待遇表現上 JS 受年齡因素影養比 TS 大。

（4） 當對象是己方人時，JS 幾乎都以動詞「て」型之使用為主，TS 動詞「て」型之使用則集中在年齡比自己小的弟妹或男女朋友。另外，TS 在對己方人且是年齡比自己年長的對象上，和 JS 比起來使用了客套程度較高之表現。

關鍵字：待遇表現、客套程度、親疏關係、上下關係、台日比較

* 國立高雄餐旅大學應用日語系副教授
2013 年 9 月 30 日到稿　2013 年 12 月 7 日通過刊登

Research of Polite Degree of Hearer-Oriented Language Use

Wu, Yueh-Hua*

Abstract

This research investigates the differences in the use of hearer-oriented language use in conversations between the senior learners of the Taiwanese university students (TS) and the Japanese university students (JS). Through this research, we have come to the following conclusions.

TS use many expressions with higher degree of politeness, more than JS while the other party is higher in power relation like a teacher or a senior. It is obvious that TS are indicated to have a stronger rule awareness in Japanese honorific language expression than JS does.

Compare to TS, when the other party is an elderly person, JS use more expressions with higher degree of politeness. On the other hand, there were no obvious differences when the other party is a close high school student, but when the other party is an unfamiliar high school student, JS use more polite style than TS.

When the other party is someone in the family, the form of “verb+ te”, “ryogaeshite (yo)” is mostly used by JS. In contrast, it is a characteristic for TS that the usage of “ryougaeshite (yo)”only occurs when the other party is “younger brothers or sisters” and “lover”. In addition, it is revealed that in TS, the usage of the expression of polite degree was slightly higher than JS when the other party is older in the family.

Key words: hearer-oriented language use, politeness, familiar/unfamiliar relationship, hierarchical relationship, comparison between Taiwan and Japan

*Associate Professor, Department of Applied Japanese, NKUHT

台日大学生における待遇表現の丁寧度に関する一考察

呉　岳樺*

要　旨

本研究は、台湾人大学生の上級学習者（TS）と日本人大学生（JS）の待遇表現における丁寧さの相違について考察したものである。本論の分析から明らかになったことは以下の点である。

(1) 規範からは、力関係が上の人に対してより高い丁寧度の敬語がよく使われることが予想されるが、実際には JS は親しくない先生（疎）だけにより高い丁寧度の敬語を用いられていた。一方、TS は力関係が上の人への丁寧度をより顕著に反映している。つまり、TS は日本語の敬語表現に対する強い規範意識が JS より顕著であることが明らかになった。

(2) 従来、親しみを表す「常体（です・ます形の不使用）」の機能を持つとされているダウンシフトは、力関係が同や下の相手には、JS は TS より多用する傾向がある。

(3) TS と JS の丁寧度使用には、JS の方が「年齢」という要素がより大きなウエートを占めることが観察された。

(4) 相手が身内の人の時、JS は「両替して（よ）」という「動詞て」系を一番多く用いているのに対して、TS は「両替して（よ）」の使用が「弟・妹」と「恋人」だけに集中するのが特徴である。

キーワード：待遇表現、丁寧さ、親疎関係、上下関係、台日比較

---

*国立高雄餐旅大学応用日本語学科副教授

台日大学生における待遇表現の丁寧度に関する一考察

呉　岳樺

1. はじめに

我々は、日常いろいろな人と接するが、それらの人々に対して同じことを伝えようとするときに、いつも同じ言い方をするわけではない。むしろ、日本語では相手によってことばを使い分けるのが普通である。他人に何かしてもらうという行為では話し手が受益者となるために、聞き手の不利益や負担を取り除いたり減じたりする努力がなされるのが普通であって、円滑な対人コミュニケーションのためのある種の方略としての特質である。したがって、話し手がどのようなことばを使ったかによって、聞き手に対してどのような扱いをしているかが分かる。このような相関関係を観察すれば、相手に対する待遇表現の丁寧さも分かる。本研究では、台湾人大学生の上級日本語学習者[1]（以下、TS）と日本人大学生（以下、JS）の待遇表現における丁寧さの相違について、アンケート調査の結果と統計的解析に基づき考察する。相手（上下・親疎関係）に応じた表現の使い分けから、TS と JS が人間関係をどのような基準で認識し、それが表現にどう反映されるのかを明らかにすることを目的とする。

2.「丁寧さ」の原理と本研究の立場

話し手は聞き手に対する「配慮」や「敬意」などといったものをどのように表されるのかが「丁寧さ」の中心内容であるとよく言われているが、「丁寧さ」とは何か、ということを厳密に規定することは難しい。本稿における定義は、そのような「丁寧さ」には何らかの原理が働いているという仮説に基

[1] ここでいう上級学習者とは日本語能力試験 N2 と N1 の合格者のことである。

づくものである。ここでいう「丁寧さ」の原理は、蒲谷宏ほか（1998）[2]の定義にしたがうことにした。

蒲谷宏ほかの説明によると、行動展開表現の丁寧さについて、三つの視点（行動・決定権・利益）があるという。まず、行動であるが、相手を行動させることに展開する表現は、基本的には丁寧な行動とは言えない。その代わりに、自分が行動することに展開させる表現は丁寧であると言える。つまり、自分が行動するほうが丁寧になる。決定権については、相手に決定権を持たせることは、基本的に丁寧であると考えられる。こちらが決定してしまうのではなく、基本的には相手に動くかどうかを決定してもらうほうが丁寧な行動と言える。最後に、利益であるが、相手に利益があることを表明するのは、基本的に丁寧ではないと言える。自分が相手の行動によって利益や恩恵を受けると認識すること、相手の行動をありがたいと認識し、それを伝えることが丁寧だと考えることができる。

以上の点をまとめると、最も丁寧さが高いものは、次の構造である。「自分」が「行動」する。「相手」が「決定権」を持つ。「自分」が「利益」を受ける。代表的な表現は許可求めである。一方、一番丁寧さが低い表現は、次の構造である。「相手」が「行動」する。「自分」が「決定権」を持つ。「相手」が「利益」を受ける。代表的な表現は許可与え表現である。

本研究では、上述した丁寧さの原理に基づいて、「千円札を小銭に両替してもらう」という依頼の場面を設定し、TS と JS における丁寧さの使用実態を調査し、相手と丁寧さの関係について検討する。

3. 調査の概要

3.1 調査方法と対象

本調査では被験者を TS と JS に限定し、全部で 340 人（TS：168 人、JS：172 人）[3]に多肢選択という調査法を実施した。回収したすべての調査票をチ

---

[2] 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』第三章を参照。大修館書店。

[3] 括弧で示したのは男・女の人数である。

TS：東呉大学（17・17）、輔仁大学（14・21）、国立台中科技大学（17・17）、静宜大学（17・17）、文藻外語学院（14・17）。合計 168 人。以上は台湾の大学。

JS: 西南学院大学（16・19）、日本大学（17・17）、神田外国語大学（17・17）、同志社大学（17・18）、北海道文教大学（17・17）。合計 172 人。以上は日本の大学。

ェックしてから、回答者のミスや不完全な部分が見つかった回答は無効回答として無条件に統計の対象から除外した。TS の有効回答は 163 人で、JS の有効回答は 161 人である。調査場所は日本（北海道、関東、関西、九州）と台湾（北部、中部、南部)である。

3.2 調査時間

調査期間は 2012 年 1 月から 2012 年 3 月にかけてである。

3.3 調査内容

調査場面について、「あなたは携帯を忘れてしまったので、公衆電話ボックスに入って、電話をかけることにしました。ところが、自分が千円札しか持っていないことに気づきました。その時、ちょうど、相手（聞き手）が通りかかってきたので、千円札を小銭に両替してもらうように頼んでいます。」という内容を設定した。具体的には、「親疎関係」「上下関係」などの組み合わせに配慮した 16 の人物カテゴリーについて、それぞれ使用すると思われる表現を列挙された表現（パイロット・サーベイから得た項目）から選択し、回答する形式（選択回答法）である。16 の人物は表 1 に示す。

表 1　相手の内訳

番号	聞き手	親疎関係	上下関係
01	大学の先生	親	上
02	大学の先生	疎	上
03	大学の先輩	親	上
04	大学の先輩	疎	上
05	大学の同級生	親	同
06	大学の同級生	疎	同
07	大学の後輩	親	下
08	大学の後輩	疎	下
09	近所のおばさん	親	上
10	近所の高校生	親	下
11	初対面のおばさん	疎	上
12	初対面の高校生	疎	下
13	父・母	親	上
14	兄・姉	親	上
15	弟・妹	親	下
16	自分の彼氏（彼女）	親	同

3.4 調査データの処理

待遇表現には、「前置き」などの部分があるが、本研究は、「丁寧さの違い」を焦点に考察するので、回答していただいた部分は「動詞の部分」だけである。データ分析を行う際に、統計的な有意差があるかどうかを基準とする。

4. 調査結果と考察

4.1 用例と丁寧度

以下、調査結果の分析を記す。データを分析する前に、まずパイロット調査から得た用例とその丁寧度を確認する。全ての回答を、前述した蒲谷宏ほか（1998）の丁寧さ理論に照らして明らかにしていくことにする。パイロット調査から得た項目から分かるように、ほとんどの回答は「両替していただく」「両替してくださる」「両替してもらう」「両替してくれる」などの表現（丁寧体と普通体）に集中している。

敬語の認識としては、「いただく」と「くださる」は「もらう」と「くれる」の尊敬表現なので、「いただく」と「くださる」の方がより丁寧であることが分かる。しかし、「くださる」と「いただく」はどちらが丁寧なのか、という難問がある。選択項目の一つである「両替してくださいますか」は、基本的な依頼の構造である。このような「～てくださる」は、「行動」＝「相手」、「決定権」＝「相手」、「利益」＝「自分」ということが、表現上も明確であるのに対して、もう一つの選択項目である「両替していただけますか」という「～ていただく」は、「行動」が「自分」（両替していただける）に切り替えられているという点に注目すべきであった。つまり、「両替していただけますか」のは、「両替する」のは「相手」なのだが、その「行動」を「私が両替していただける」というように捉え直した表現の仕方であり、そのことによって、「行動」＝「自分」、「決定権」＝「相手」、「利益」＝「自分」という構造に換えていると考えられるのである。両者の違いは、「行動」が「相手」か「自分」かという点だけである。そして、「丁寧さ」の原理にしたがえば、「両替してくださいますか」よりも「両替していただけますか」の方が構造的に丁寧な表現である、と言えるわけである。よって、「いただく」と「くださる」の元の形である「もらう」と「くれる」の違いについても、同じ原理から説

明できる。また、「丁寧体（です・ます）」は「普通体」より丁寧であるという概念を加えて、表 2 のように整理することができる。

表 2　用例と丁寧度

分類	用　例	丁寧度
「いただく」系（丁寧体）	両替していただいてもよろしいですか。	高 ↑
	両替していただけないでしょうか。	
	両替していただけませんか。	
	両替していただけますか。	
「くださる」系（丁寧体）	両替してくださいませんか。	
	両替してくださいますか。	
「もらう」系（丁寧体）	両替してもらってもいいですか。	
	両替してもらいたいんですけど。	
	両替してもらえないでしょうか。	
	両替してもらえませんか。	
	両替してもらえますか。	
「くれる」系（丁寧体）	両替してくれませんか。	
	両替してくれますか。	
「もらう」系（普通体）	両替してもらっていい？	
	両替してもらえないかな？	
	両替してもらえない？	
	両替してもらえるかな？	
	両替してもらえる？	
「くれる」系（普通体）	両替してくれないかな？	
	両替してくれない？	
	両替してくれるかな？	
	両替してくれる？	↓
指示形	両替してください。	
「動詞て」系	両替して。	低
	両替してよ。	

調査を通じて 25 種の用例が得られたが、便宜上、丁寧度がより近いグループの項目を一括して分類することにした。グループ分けとその丁寧度について、表 2 の通りである。

4.2 聞き手と丁寧度

今回の有効データは 324 人（TS：163 人、JS：161 人）である。各回答の割合を小数点以下第 1 位まで示すこととする。個々の数字は各用例の使用人数を総人数で割ったものである。用例別の分類が多いため、使われていない用例を省略し、低い使用率（3%以下）の用例なども表示しないことにした。ただし、台日のデータを比較するために、必要とされるデータが除かれる。各用例の使用率に TS と JS との間で、統計的な有意差があるかどうかをカイ二乗検定で検討し分析する。

4.2.1 先生と先輩

本節では相手との親疎関係、上下関係という組み合わせによって、TS と JS の用いる用例がどのように違うかについて述べる。表 3 は大学の先生（親・疎）が対象で、TS と JS の調査結果を示したものである。

表 3　TS と JS の対象別（先生）における各用例の使用率（%）

対象 / 用例別	大学先生（親）TS	大学先生（親）JS	大学先生（疎）TS	大学先生（疎）JS
いただく系（丁）	87.7%***	59%	95.7%**	86.3%
くださる系（丁）	1.8%	4.3%	0.6%	2.5%
もらう系（丁）	9.2%	21.1%***	2.5%	7.5%
くれる系（丁）	0%	11.8%***	0%	3.1%

***p<.001　**p<.01

統計結果から分かるように、TS は相手が親しい先生の時、ほとんど丁寧度が一番高い「いただく（丁寧体）」系（87.7%）の使用に集中しているのに対して、JS は「いただく（丁寧体）」系（59%）のほかに、「もらう（丁寧体）」（21.1%）系と「くれる（丁寧体）」（11.8%）系の使用が顕著である。一方、相手が親しくない先生の時、TS と JS は「いただく（丁寧体）」系の使用率が共に増えているのが特徴である。統計的な有意差を示すため、下線で示したのは TS の使用率が高い結果である。一方、網掛けで示したのは JS の使用率が高い結果である。（以下、同）

表 4 は大学の先輩（親・疎）が対象で、TS と JS の調査結果を示したものである。相手が大学の親しい先輩の時、TS は「いただく（丁寧体）」（30.1%）系と「くださる（丁寧体）」系（20.9%）を多用するのに対して、JS は「もらう（丁寧体）」系（36%）と「くれる（丁寧体）」系（34.8%）を多く用いている。TS と JS との間に統計的な有意差が見られたのは、「くださる（丁寧体）」系と「もらう（丁寧体）」系である（p<.001）。一方、相手が大学の親しくない先輩の時、TS は「いただく（丁寧体）」（37.4%）系と「くださる（丁寧体）」系（32.5%）の使用率が親しい先輩より少し高くなっている。それに対して、JS は「もらう（丁寧体）」系（31%）と「くれる（丁寧体）」系（24.8%）の使用率が少し減り、その代わりに「いただく（丁寧体）」（35.4%）系の使用率が増えている。

表 4　TS と JS の対象別（先輩）における各用例の使用率（%）

対象 / 用例別	大学先輩（親）TS	大学先輩（親）JS	大学先輩（疎）TS	大学先輩（疎）JS
いただく系（丁）	30.1%	19.3%	37.4%	35.4%
くださる系（丁）	20.9%***	2.5%	32.5%***	8.1%
もらう系（丁）	11%	36%***	19%	31%
くれる系（丁）	25.8%	34.8%	9.8%	24.8%***
もらう系（普）	4.3%	0.6%	0%	0%
くれる系（普）	6.7%**	0.6%	0%	0.6%
指示形	1.2%	5.6%	1.2%	0%

***p<.001　**p<.01

以上の分析から分かるように、両方とも親しくない先生や先輩などに対して、より丁寧度の高い表現を用いるのが共通であるが、TS の方が JS より著しい。また、TS は相手が先生や先輩などのような力関係が上の人に対して、JS より丁寧度の高い表現である「いただく（丁寧体）」系と「くださる（丁寧体）」系を多用する傾向がある。TS は日本語の敬語表現に対する強い規範意識がより顕著であるとうかがえる。

4.2.2 同級生と後輩

表 5 は大学の同級生（親・疎）が対象で、TS と JS の調査結果を示したものである。統計結果から分かるように、相手が親しい同級生の時、TS と JS は「くれる（普通体）」系（50.9%）を多用しているが、TS と JS との間に統計的な有意差が見られたのは、「くれる（丁寧体）」系、「もらう（普通体）」系と「動詞て」系である（p<.001）。つまり、TS は JS より、少し高い丁寧度の表現を用いるのが特徴である。一方、相手が親しくない同級生の時、TS は丁寧体の使用に集中しているのに対して、JS は普通体の使用が多かった。両者の間に統計的な有意差があることが検証された（p<.001）。

表 5　TS と JS の対象別（同級生）における各用例の使用率（%）

対象 / 用例別	同級生（親）TS	同級生（親）JS	同級生（疎）TS	同級生（疎）JS
くださる系（丁）	6.1%	1.2%	8%***	0%
もらう系（丁）	3.1%	2.5%	19%	15.6%
くれる系（丁）	19%***	0.6%	47.9%***	14.9%
もらう系（普）	10.4%	24.2%***	9.2%	31.1%***
くれる系（普）	50.9%	50.9%	12.3%	32.3%***
動詞て系	6.7%	20.5%***	0%	1.9%

***p<.001　**p<.01

表 6 は大学の後輩（親・疎）が対象で、TS と JS の調査結果を示したものである。相手が親しい後輩の時、TS と JS はほとんど「もらう（普通体）」系と「くれる（普通体）」系の使用に集中しているが、JS は「動詞て」系（19.3%）が目立った（p<.01）。一方、相手が親しくない後輩の時、TS は「もらう（丁寧体）」系と「くれる（丁寧体）」系の使用率が親しい先輩の時より高くなっているのに対して、JS は親しい先輩の時と同じように、「もらう（普通体）」系と「くれる（普通体）」系の使用に集中する傾向がある。

表 6　TS と JS の対象別（後輩）における各用例の使用率（%）

対象 / 用例別	後輩（親）TS	後輩（親）JS	後輩（疎）TS	後輩（疎）JS
もらう系（丁）	8%	2.5%	20.3%	11.8%
くれる系（丁）	6.7%	1.9%	20.9%***	7.5%
もらう系（普）	21.5%	42.2%***	18.4%	44.1%***
くれる系（普）	53.4%***	32.9%	32.5%	29.2%
指示形	1.8%	0%	6.1%	1.2%
動詞て系	8.6%	19.3%**	1.2%	3.7%

***p<.001　**p<.01

以上の分析から分かるように、両方とも「もらう」系と「くれる」系の使用が中心であるが、相手が同級生や後輩の時、丁寧体の「です・ます形」の使用が、TS は JS より多く用いる傾向がある。特に相手が親しくない場合がより顕著である。

4.2.3 隣人と初対面の人

表 7 は隣人のおばさん（親）と高校生（親）が対象で、TS と JS の調査結果を示したものである。相手が親しいおばさんの時、TS は「もらう（丁寧体）」系（49.1%）と「くれる（丁寧体）」系（17.2%）の使用率が高いのに対して、JS は「いただく（丁寧体）」系（48.4%）と「くださる（丁寧体）」系（45.3%）を多く用いている。JS の方がより丁寧度の高い表現を用いるのが分かった。一方、相手が親しい高校生の時、両方とも「もらう（普通体）」系と「くれる（普通体）」系を多用し、各表現の使用率に目立った差異は見られなかった。

表 8 は初対面のおばさん（疎）と高校生（疎）が対象で、TS と JS の調査結果を示したものである。相手が親しくないおばさんの時、TS と JS は「いただく（丁寧体）」系と「もらう（丁寧体）」系の使用が中心であったが、JS の方が「いただく（丁寧体）」系の使用率が TS より高いのが特徴である（p<.001）。一方、相手が親しくない高校生の時、両者の間に統計的な有意差が見られたのは、TS の「もらう（丁寧体）」系（46.7%、p<.001）と JS の「いただく（丁寧体）」系（16.1%、p<.001）であった。

表 7　TS と JS の対象別（隣人）における各用例の使用率（%）

対象 用例別	おばさん（親）TS	おばさん（親）JS	高校生（親）TS	高校生（親）JS
いただく系（丁）	12.9%	48.4%***	1.2%	4.3%
くださる系（丁）	9.2%	43.5%***	1.8%	0%
もらう系（丁）	49.1%***	0%	14.1%	8.7%
くれる系（丁）	17.2%**	6.8%	9.2%	6.8%
もらう系（普）	4.3%**	0%	35.6%	40.4%
くれる系（普）	6.7%	1.2%	32.5%	32.9%
動詞て系	0%	0%	4.3%	6.2%

***p<.001　**p<.01

表 8　TS と JS の対象別（初対面の人）における各用例の使用率（%）

対象 用例別	おばさん（疎）TS	おばさん（疎）JS	高校生（疎）TS	高校生（疎）JS
いただく系（丁）	33.1%	60.2%***	4.3%	16.1%***
くださる系（丁）	9.8%	4.3%	5.5%	4.3%
もらう系（丁）	49.1%***	23.6%	46.7%***	27.9%
くれる系（丁）	4.9%	9.9%	16.6%	21.1%
もらう系（普）	1.2%	0.6%	16.6%	19.3%
くれる系（普）	1.8%	0%	8%	11.2%

***p<.001　**p<.01

表 7 と 8 の分析から分かるように、相手がおばさん（親疎とも）の時、TS に比べ、JS の方がより丁寧度の高い表現を多用していることが観察された。JS には相手の年齢に影響されていることが TS より顕著であることが分かった。一方、相手が親しい高校生の時、両者の間に大きな差はなかったのに対して、相手が親しくない高校生の時、JS は「いただく（丁寧体)」系の使用が TS より多く、JS の特徴と言える。

4.2.4 身内の人

表 9 は身内の人（父・母と兄・姉）が対象で、TS と JS の調査結果を示したものである。統計結果から分かるように、相手が自分の親の時、TS は「もらう（普通体）」系（35%）と「もらう（丁寧体）」系（20.2%）の使用に集中しているのに対して、JS は「動詞て」系（47.2%）と「くれる（普通体）」系（29.8%）を多く用いている。一方、相手が自分の（兄・姉）の時、TS は「動詞て」系（28.8%）の使用が増えているが、その割合は JS ほどではない。JS は「父・母」と「兄・姉」に対して、「動詞て」系を多用することが分かった。

表 9　TS と JS の対象別（身内Ｉ）における各用例の使用率（%）

対象 / 用例別	父・母（親）TS	父・母（親）JS	兄・姉（親）TS	兄・姉（親）JS
もらう系（丁）	20.2%***	1.8%	6.7%**	0.6%
くれる系（丁）	6.1%	1.2%	0.6%	0.6%
もらう系（普）	35%***	18%	32.5%**	17.4%
くれる系（普）	16%	29.8%**	19%	28.6%
指示形	12.9%***	0.6%	11%***	0%
動詞て系	8%	47.2%***	28.8%	51.6%**

***p<.001　**p<.01

表 10 は身内の人（弟・妹と恋人）が対象で、TS と JS の調査結果を示したものである。相手が自分の（弟・妹）の時、TS はほとんど「動詞て」系（77.9%）の使用に集中しているのに対して、JS は「動詞て」系（58.4%）の使用が TS ほどではないが、「くれる（普通体）」系の使用率には JS と TS との間で差が見られた（**p<.01）。一方、相手が自分の恋人の時、両者の間に統計的な有意差が見られたのは、TS の「動詞て」系（58.3%、p<.001）と JS の「もらう（普通体）」系（28%、p<.01）であった。

表 10　TS と JS の対象別（身内Ⅱ）における各用例の使用率（%）

対象 用例別	弟・妹（親）TS	弟・妹（親）JS	恋人（親）TS	恋人（親）JS
もらう系（普）	8%	15.5%	15.3%	28%**
くれる系（普）	11.7%	24.8%**	22.1%	32.9%
動詞て系	77.9%***	58.4%	58.3%***	37.9%

***p<.001　**p<.01

表 9 と 10 の分析から分かるように、相手が身内の人の時、JS は全ての人に対して「両替して（よ）」という「動詞て」系を一番多く用いているのが共通であるのに対して、TS は「両替して（よ）」の使用が「弟・妹」と「恋人」だけに集中するのが特徴である。また、TS は身内の上の人（父・母と兄・姉）に対して、JS より少し高い丁寧度の表現を用いるのが明らかになった。

5. まとめ

これまで、TS と JS との異同に着目して、全ての対象を取り上げて使用傾向を考察してきた。以上の結果をまとめると、TS と JS には以下のような特徴が見られた。

(1) TS は相手が先生や先輩などのような力関係が上の人に対して、JS より丁寧度の高い表現である「いただく（丁寧体）」系と「くださる（丁寧体）」系を多用する傾向がある。

(2) 相手が同級生や後輩などのような力関係が同や下の時、丁寧体の「です・ます形」の使用が、TS は JS より多く用いる傾向がある。特に相手が親しくない場合がより顕著である。

(3) 規範からは、力関係が上の人に対してより高い丁寧度の敬語がよく使われることが予想されるが、実際には JS は親しくない先生（疎）だけにより高い丁寧度の敬語を用いられていた。一方、TS は力関係が上の人への丁寧度をより顕著に反映している。つまり、TS は日本語の敬語表現に対する強い規範意識が JS より顕著であることが明らかになった。

(4) 従来、親しみを表す「常体（です・ます形の不使用）」の機能を持つと

されているダウンシフトは、力関係が同や下の相手には、JS は TS より多用する傾向がある。

(5) 相手がおばさんのような年配の方の時、TS に比べ、JS の方がより丁寧度の高い表現を多用していることが観察された。JS には相手の年齢に影響されていることが TS より顕著であることが分かった。一方、相手が親しい高校生の時、両者の間に大きな差はなかったのに対して、相手が親しくない高校生の時、JS は「いただく（丁寧体）」系の使用が TS より多く、JS の特徴と言える。以上の分析から分かるように、両者には相手との親疎関係が重要な変数として働くことが分かったが、JS の方が「年齢」という要素がより大きなウエートを占めることが観察された。

(6) 相手が身内の人の時、JS は「両替して（よ）」という「動詞て」系を一番多く用いているのに対して、TS は「両替して（よ）」の使用が「弟・妹」と「恋人」だけに集中するのが特徴である。また、TS は身内の上の人（父・母と兄・姉）に対して、JS より少し高い丁寧度の表現を用いるのが明らかになった。

以上の分析から TS と JS の対人行動に関する微妙な心理が反映されていると見ることができる。特に、JS が無意識のうちに行っている微妙な丁寧さの調整のあり方について、そのような現象があるということを TS（日本語学習者）にも理解させておく必要がある。

6. 終わりに

本研究では色々な人に「両替してもらう」という場面における丁寧度という観点から分析してきた。今後、相手の担っている社会的役割や立場とその発話内容との関係を考え、聞き手に合わせてどのように適切な表現を構成するのかということも重要な研究内容である。なお、依頼という場面以外、違う場面設定についても考察する必要がある。これから、断り、不満、謝罪などのテーマを加えて考察を進めていくことを今後の課題としたい。

参考文献

有田由紀子、「日本人大学生の敬語使用に関する事例研究」、『福岡女学院大学紀要』18 人文学部編、2008、85~99

井出祥子ほか、『日本人とアメリカ人の敬語行動—大学生の場合—』、南雲堂、1986

蒲谷宏・川口義一・坂本恵、『敬語表現』、大修館書店、1998

蒲谷宏・川口義一・坂本恵・清ルミ・内海美也子、『敬語表現教育の方法』、大修館書店、2006

蒲谷宏、「『丁寧さ』の原理に基づく『許可求め型表現』に関する考察」、『国語学研究と資料』30、2007、37~46

蒲谷宏ほか、『敬語表現ハンドブック』、大修館書店、2009

菊地康人、『敬語』、講談社学術文庫、1997

菊地康人、朝倉日本語講座 8『敬語』、朝倉書店、2003

熊谷智子、「コミュニケーションにおける『丁寧さ』について」、『待遇コミュニケーション研究』4、2006、79~92